

テーマ 『連携』にまつわるなぜ? なんて?



就労支援や障がい者雇用・職場定着をすすめる上で『連携』は頻りに使われるキーワードですが、その概念は曖昧であり、様々な形や場面で用いられているのが実情と思います。またこれまでの連絡会の参加者からも「就労支援と相談支援はどのようなタイミングで情報共有すると効果的か」「就労支援と生活支援、一体的な支援をするためにはどのように連携すると良いか」等の声が寄せられておりました。

今回は、様々な機関が一堂に会して意見交換を行うことを目的に、連絡会を開催いたしました。



Aグループ
各々の視点を大切に
一体感のある支援を

【話題】

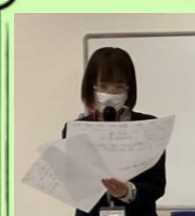
- ・グループホームが連携の輪に入れない事が多い。動きがある際は関係者で集まりたい。
- ・企業としても、相談支援やグループホーム等の生活や家庭状況が分かる支援者がいてくれるとありがたい。



Bグループ
「話しづらい」を
解消していきたい

【話題】

- ・生活課題はどこに相談したら良いのか。まずは気軽な相談を通じて、トラブルへの発展を防ぐ。
- ・課題がないと連絡が取りづらい印象があり、相談支援事業所への連絡が遠慮がちに。どんどん共有の連絡をしていく。



Cグループ
顔の見える関係性
から、情報を得る

【話題】

- ・人材不足、業務ひっ迫で連携が困難。効率化するアイデアを交換した。悩みを抱え込む事で悪循環になる事を再認識。
- ・事業所外に積極的に出ることで、必要な情報を伝え合える関係性づくりが必要。

当日は、就労系福祉サービスを中心に相談支援事業所やグループホーム、企業から計20名が参加され、連携のどこに難しさを抱えているのかを意見交換しました。グループワークを通じて「事業所の外に出て気軽に情報交換することを連携の第一歩として、顔見知りになる機会を大切にしたい」という意見や、「お互いの考えや思っていることを話せた」、「日々のモヤモヤ感、疑問に思っていることが少し解決できてスッキリした。事業所に持ち帰って他の職員にも共有したい」という感想が聞かれました。連携の必要性を感じながらも相手機関に遠慮してしまう、情報共有するタイミングが分からないと感じている参加者が多かったようですが、満足感が得られた会であったのではないのでしょうか。

今回の連絡会では、対象者を中心とした多面的なサポートの為、フラットな関係性をもとにした情報共有が求められる事を再認識しました。また相談支援専門員の不足や生活課題への手立てをどう考えるか等、この会で挙げられた話題を、今後の地域の就労支援の質の向上や横のつながりづくりを進めていく為の取り組みに還元していきたいです。